秋田焼山の火山活動解説資料（令和７年３月）

仙 台 管 区 気 象 台
地域火山監視・警報センター

GNSS 連続観測では 2020 年中頃から秋田焼山を挟む基線でわずかな伸びの変化が継続していますが、火山活動は静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気など表面現象の状況（図１～７、図８-①）

焼山監視カメラ（東北地方整備局）による観測では、叫沢（さけびさわ）源頭部の噴気の高さは噴気孔上30m以下で経過しました。栂森（つがもり）監視カメラによる観測では、湯沼で弱い噴気が認められました。今期間、噴気活動に特段の変化はなく低調に経過しました。湯沼及び湯ノ沢上流の地熱域に特段の変化は認められませんでした。

11日に陸上自衛隊東北方面隊の協力により実施した上空からの観測では、前回の観測と比較して、叫沢源頭部、湯沼付近、湯ノ沢上流、トキワ沢上流及び叫沢中流域の噴気や地熱域の状況に特段の変化は認められませんでした。

・地震や微動の発生状況（図８-②）

火山性地震は少ない状態で経過しました。
火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図９、図11）

GNSS 連続観測で認められている 2020 年中頃からの秋田焼山（及び八幡平）を挟む基線の伸びの変化は、2022 年終わり頃からやや鈍化しつつも継続しています。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページで閲覧することができます。
https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php
次回の火山活動解説資料（令和７年４月分）は令和７年５月12日に発表する予定です。
資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。
https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/kazan/kazanyougo/mokuji.html
この資料は気象庁のほか、国土交通省東北地方整備局、国土地理院及び東北大学のデータも利用して作成しています。
本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の「数値地図50ｍメッシュ（標高）」及び「電子地形図（タイル）」を使用しています。

図１　秋田焼山　湯沼と叫沢源頭部の状況（３月 10 日）
・東北地方整備局が設置している焼山監視カメラ（山頂の西約２km）の映像です。

叫沢源頭部からの噴気の高さは30m以下で、噴気活動は低調に経過しました。

図２　秋田焼山　湯沼と湯ノ沢上流の状況（３月 13 日）と地表面温度分布（３月 16 日）
・栂森監視カメラ（湯沼の東約１km）の映像です。

湯沼で弱い噴気が認められました。湯沼及び湯ノ沢上流の地熱域に特段の変化は認められませんでした。

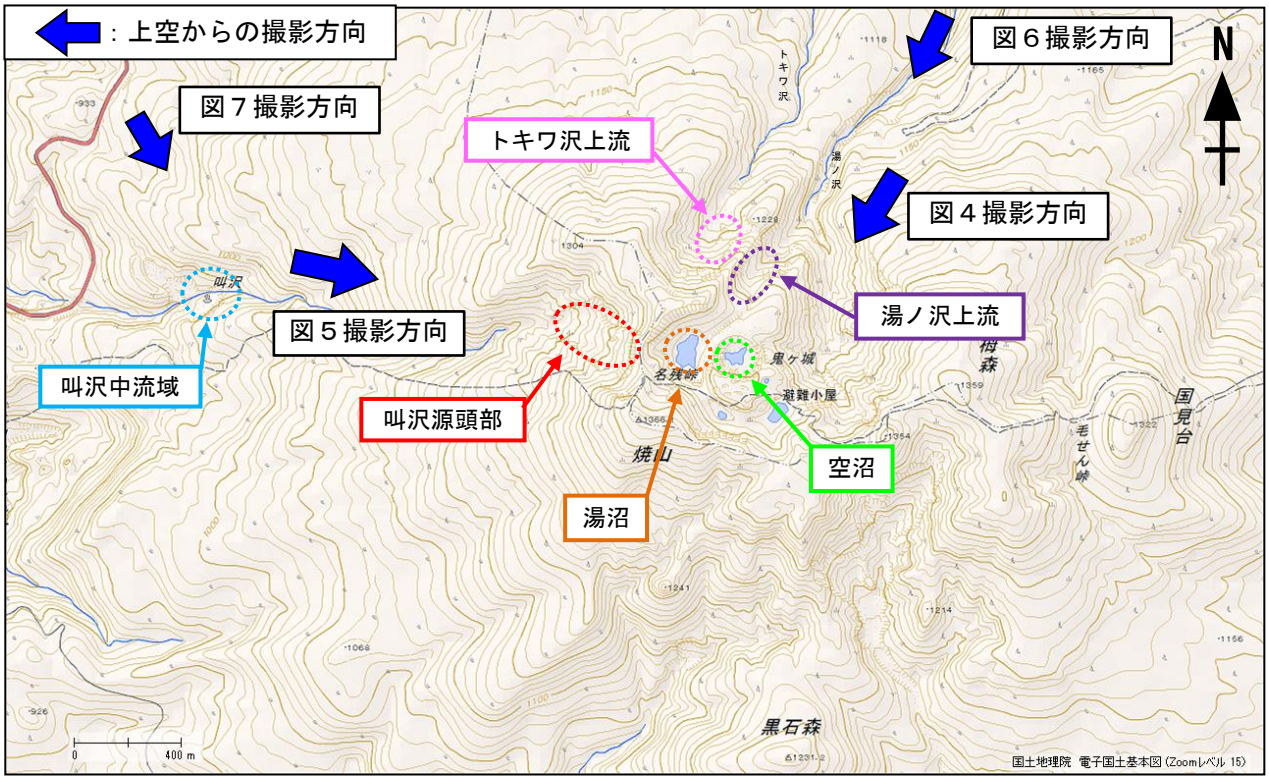

図３　秋田焼山　地熱域の分布及び写真と地表面温度分布撮影方向

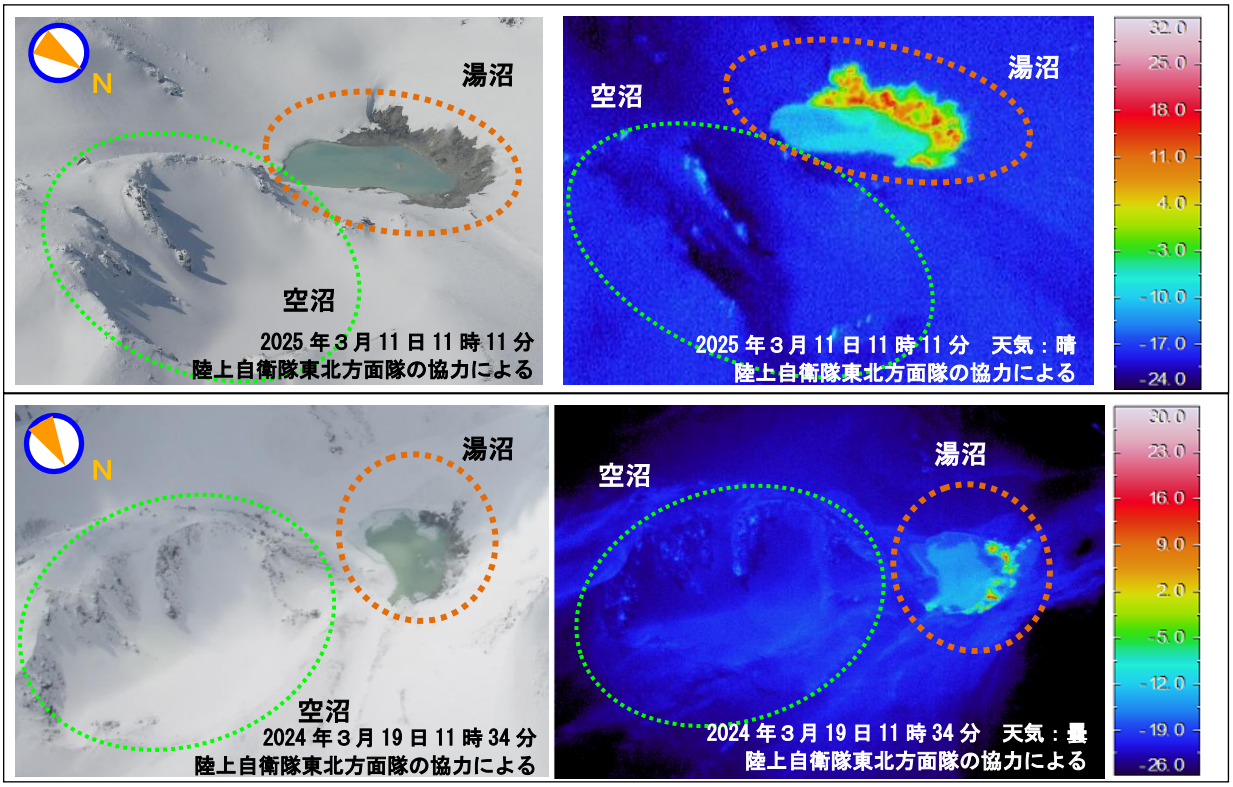

図４　秋田焼山　上空から撮影した湯沼及び空沼の状況と地表面温度分布

・図中の破線の色は、図３の破線の色に対応します。

湯沼の地熱域に特段の変化はありませんでした。空沼では地熱域は認められませんでした。
湯沼では高さ 30m 程度の噴気が認められました。

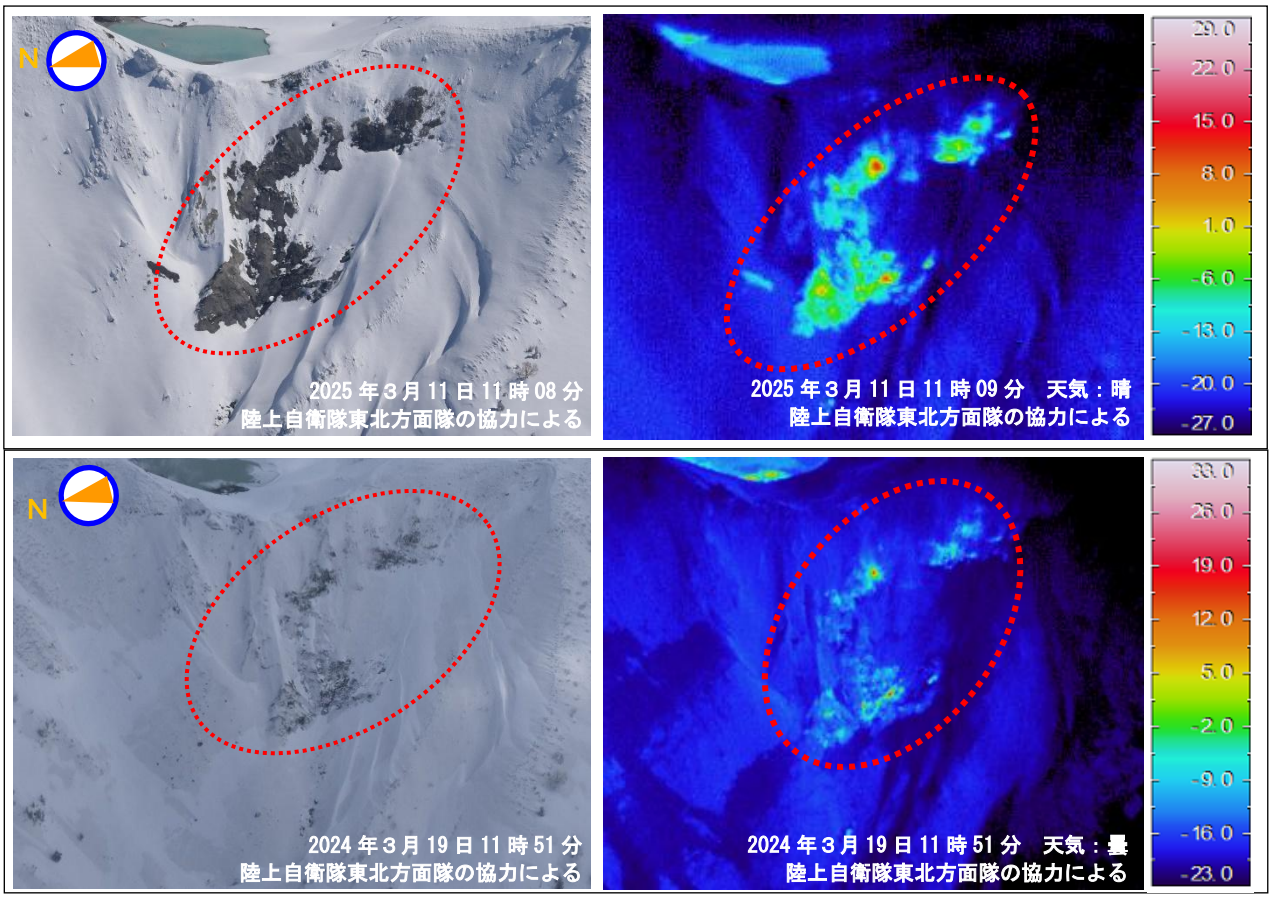

図５　秋田焼山　上空から撮影した叫沢源頭部の状況と地表面温度分布

・図中の破線の色は、図３の破線の色に対応します。

地熱域に特段の変化は認められませんでした。
叫沢源頭部では高さ 10m 程度の噴気が認められました。

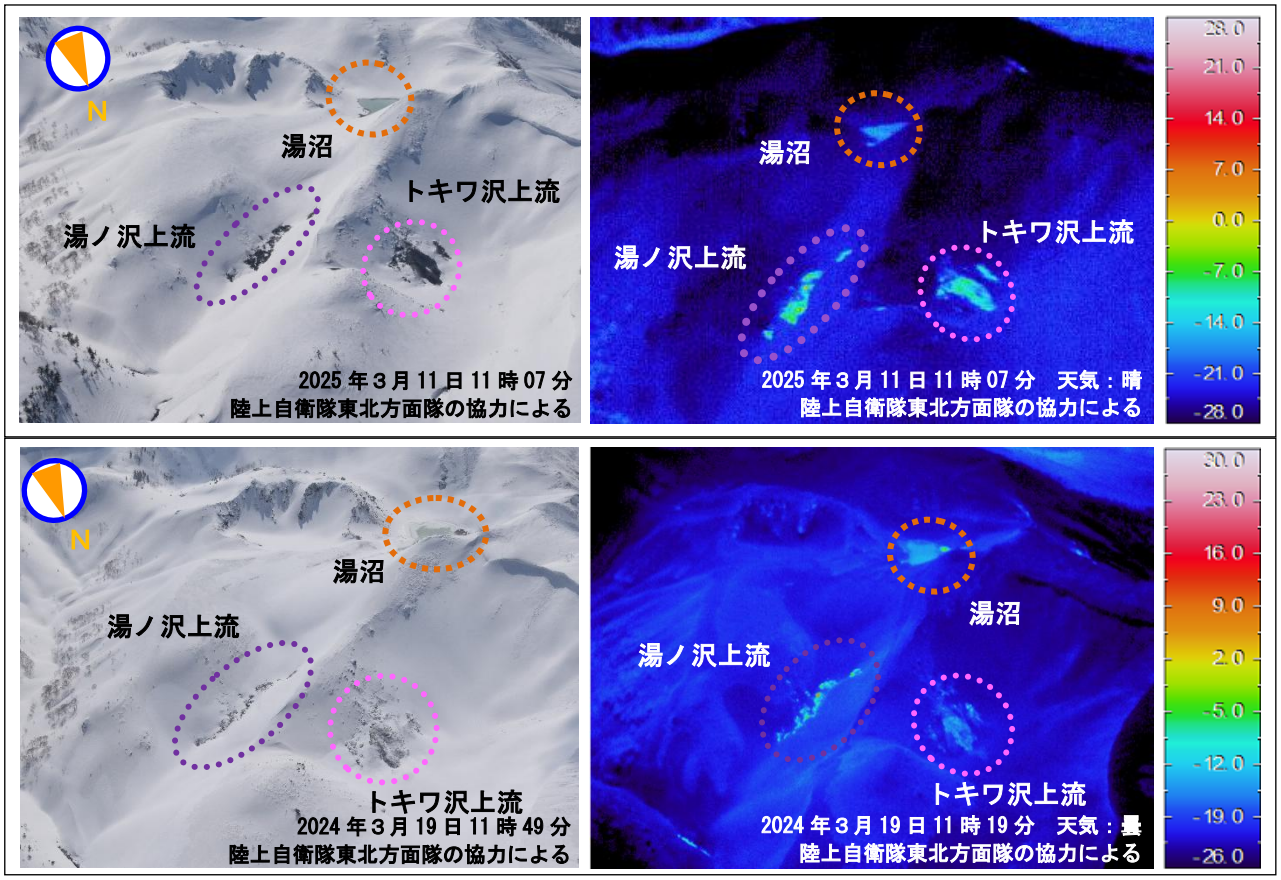

図６　秋田焼山　上空から撮影した湯ノ沢及びトキワ沢上流の状況と地表面温度分布

・図中の破線の色は、図３の破線の色に対応します。

湯ノ沢上流及びトキワ沢上流では弱い噴気が認められましたが、地熱域に特段の変化は認められませんでした。

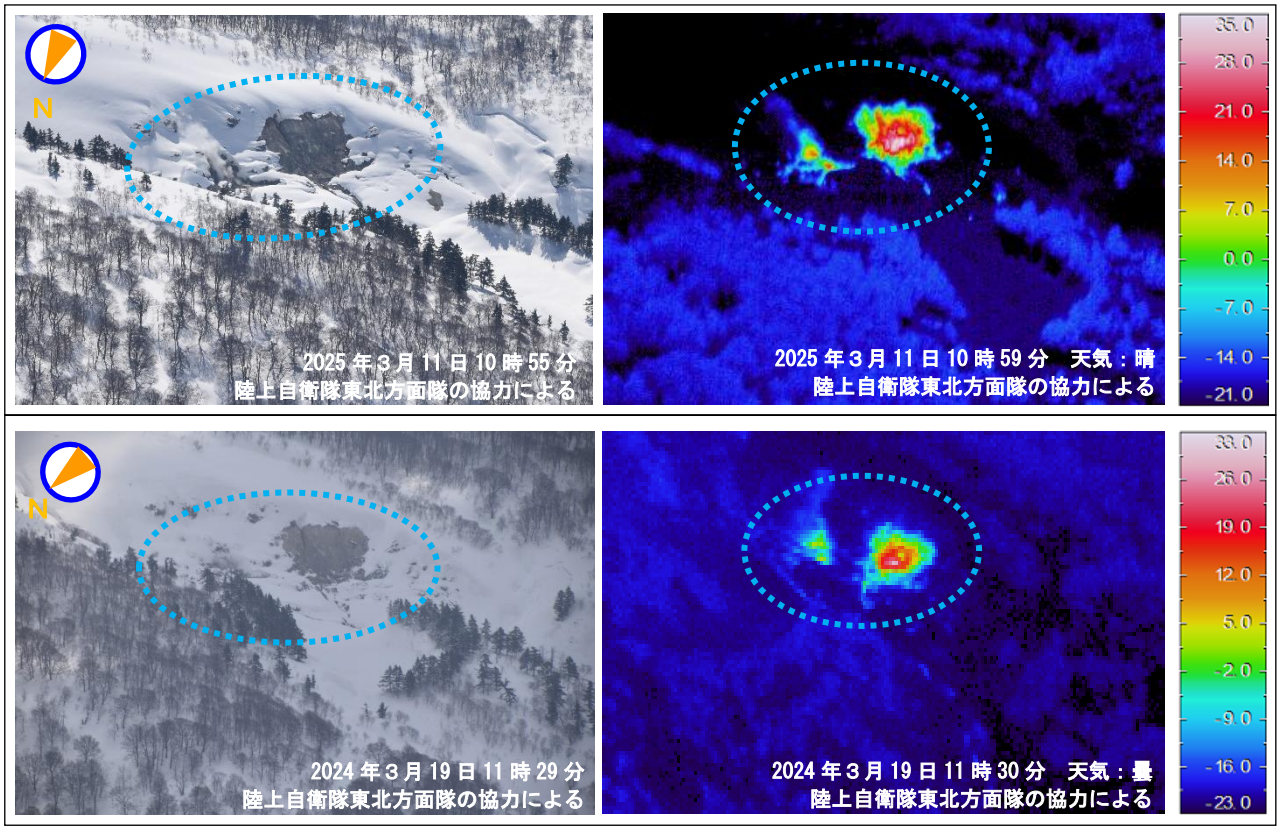

図７　秋田焼山　上空から撮影した叫沢中流域の状況と地表面温度分布

・図中の破線の色は、図３の破線の色に対応します。

叫沢中流域では高さ 30m 程度の噴気が認められましたが、地熱域に特段の変化は認められませんでした。

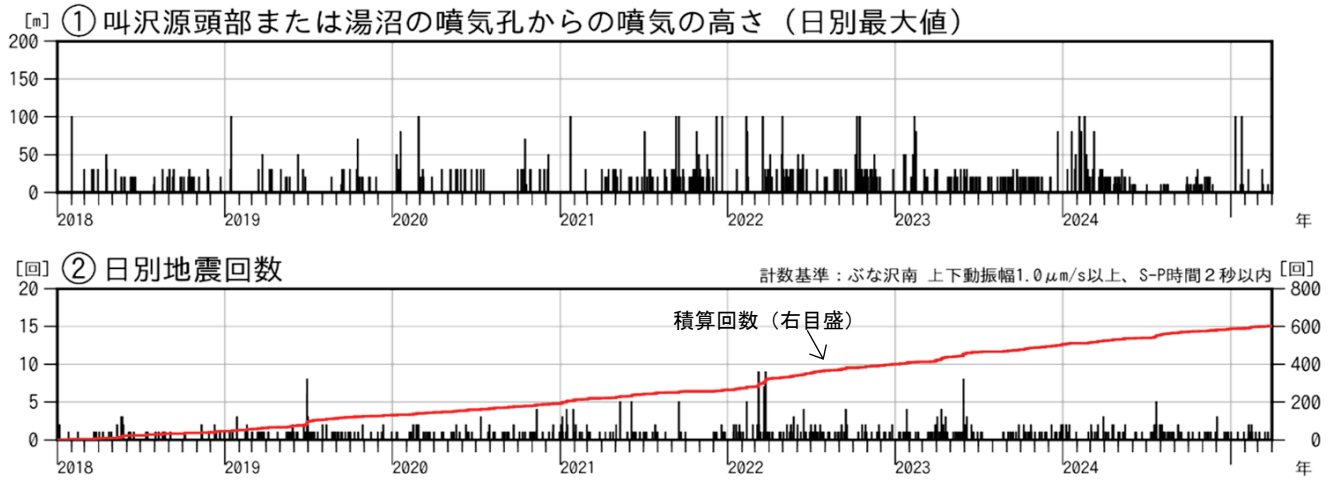

図８　秋田焼山　火山活動経過図（2018 年１月～2025 年３月）

今期間、噴気活動と地震活動は低調に経過しました。

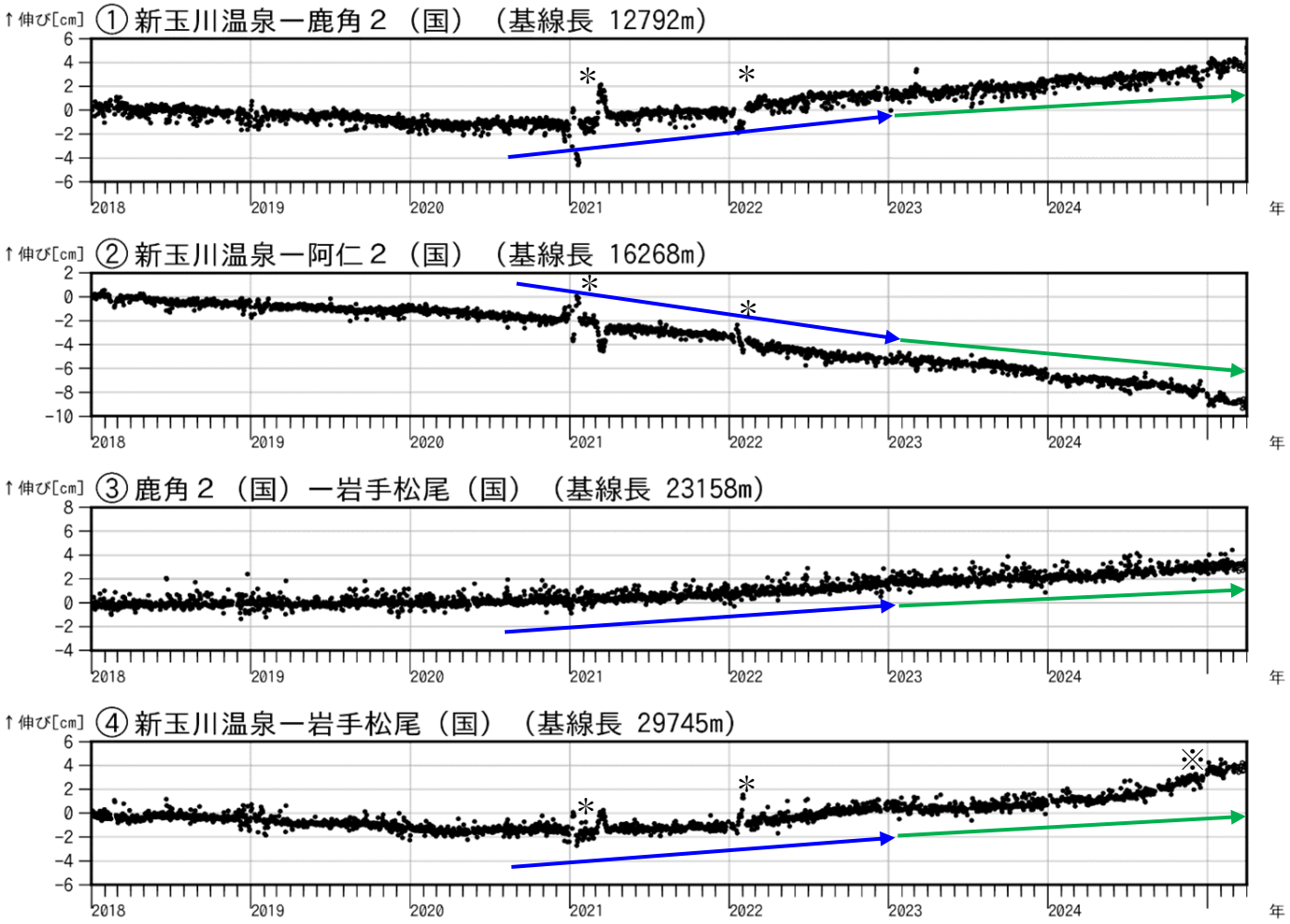

図９　秋田焼山　GNSS 基線長変化図（2018 年１月～2025 年３月）

・①～④は図 11 の GNSS 基線①～④に対応しています。
・空白部分は欠測を表しています。・（国）は国土地理院の観測点を表します。
＊：2020 年 12 月から 2021 年３月及び 2022 年１月から２月にかけての新玉川温泉観測点の変動は、火山活動に起因するものではないと考えられます。
※：岩手山の火山活動に関連する変化と考えられます。

GNSS 連続観測で認められている 2020 年中頃からの秋田焼山（及び八幡平）を挟む基線の伸びの変化（青矢印）は、2022 年終わり頃からやや鈍化しつつも継続しています（緑矢印）。

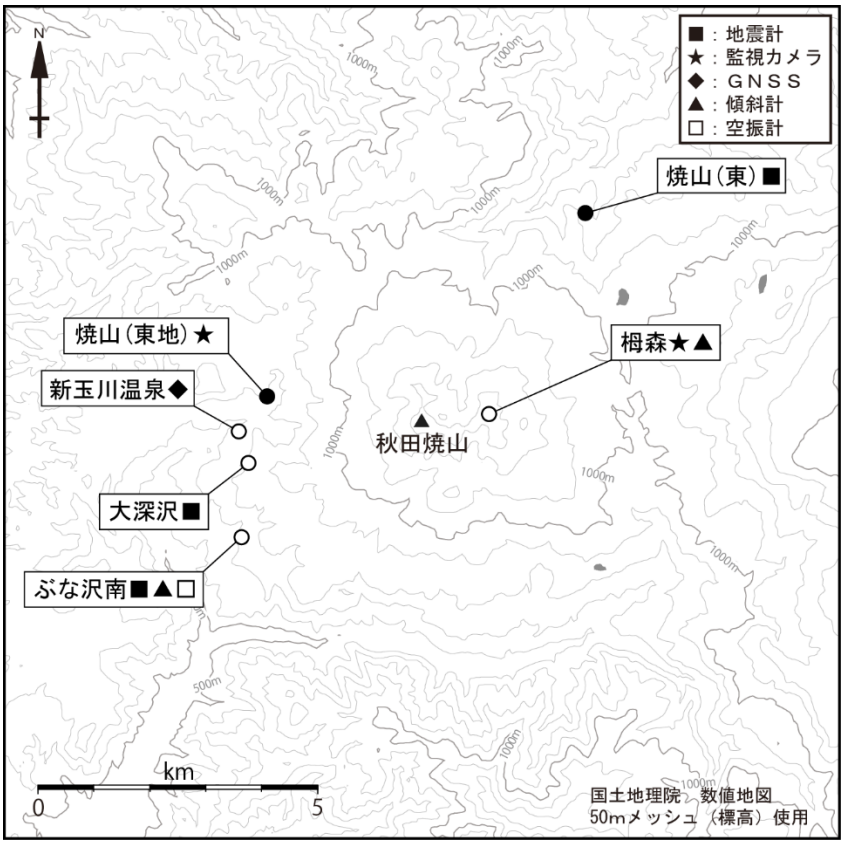

図 10　秋田焼山　観測点配置図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
（東地）：東北地方整備局　（東）：東北大学

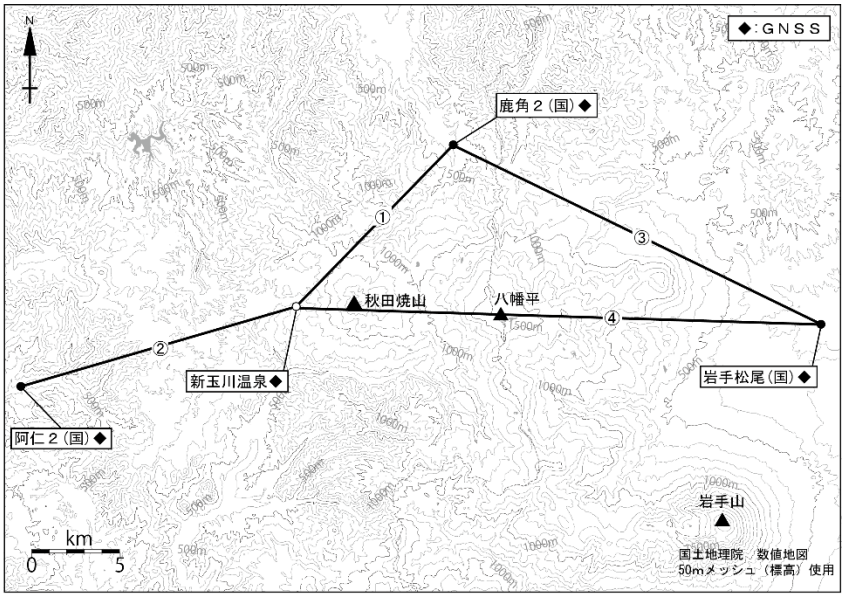

図 11　秋田焼山　GNSS 観測基線図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
（国）：国土地理院